



各協賛社の本を読者プレゼント！応募総数約2,500件！

来年の神保町ブックフェスティバル開催を祈願！

江戸・東京の本特集

本の街「東京・神保町」で開催され、2日間で約13万人が訪れるイベント「神保町ブックフェスティバル」。実行委員会メンバーである東京新聞は、読者向けイベントの主催、紙面特集などを実施してきました。本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となりましたが、来年の開催を祈願し、紙面特集を実施しました。

テーマは「江戸・東京本」。江戸・東京の歴史や地理、文化など関連本を集めた東京新聞ならではの企画です。神保町ブックフェスティバル実行委員長で、東京堂書店会長の大橋信夫氏からのメッセージを盛り込み、神保町の歴史を交えながら、来年以降開催の際に、多くの方の来場を願う想いを紙面で届けました。また、初の試みとしてご協賛社の本を読者プレゼントに。WEBサイト「中日ブックナビ」で企画ページを特設し、中日プラス、東京WEB、ハガキからの応募総数は約2,500件に。大きな反響がありました。さらに、「三省堂書店神保町本店」「東京堂書店神田神保町店」「八重洲ブックセンター」各書店の協力のもとブックフェアも開催し、紙面との連動も実現。コロナ対策を講じながら営業を続けている書店の皆様を応援するという目標も達成できました。来年、「神保町ブックフェスティバル」が無事に開催され、本の街神保町に読書を楽しむ皆さんとまたお会いできることを願って！東京新聞は全力で応援します。

(東京本社 出版・エンタテインメント広告部

内藤傳十郎)

2020年10月29日東京新聞
江戸・東京の本特集



「江戸・東京本」
特設コーナー 各協力書店で
ブックフェアを開催
しました

【読者の声】

・東京新聞の紙面で家族の会話も幅が広がっています。いつも有難うございます。神保町は大好きな町です。昔からの書店や古本屋がなくなる厳しい状況が続く昨今、コロナ禍の影響もまた心配です。行ける時には足を運びたいと思います。(50代男性)

・秋の楽しみの一つ、「神保町ブックフェスティバル」が無いのは、とても寂しいです。でも31日には本の街へ 出掛け、あちこちの本屋さんを訪ねました。いつもと違うけど、エネルギーを感じました。店主の方々に頑張れ！とエールを送りたいです。(50代女性)

・江戸東京の紙面はたくさんの本が紹介されていて、とても良かったです。読書が趣味なので、ひとつのテーマに沿った紙面のなかで紹介されている本を一冊ずつ読みたいと思いました。こうした記事があることは、ネット全盛時代にとっても貴重だと思います。(50代女性)